■見学先資料

① 土蔵培人（とくら・ばいじん）歌碑

碑文

下草を　焼きし新墾の　まだら雪

渇きて食へば　けむり臭しも　　培人

〔建立〕1983(昭和 58) 年 8 月、培人歌碑建設期成会・原始林社有志による。

土蔵培人は、短歌結社「原始林」同人で、1947(昭和 22)年 1 月、本別公民館短歌会を創立。町教育委員長、北海道教育委員会連合会会長、全国教育委員会連合会副会長を歴任。

② 川上孝代（かわかみ・たかよ）顕彰碑

碑文

〈表面〉校歌　吉川静夫作

義経山にゆるぎなき　父祖万代の教(おしえ)

なり　櫻に映ゆるあさぼらけ　希望に

燃ゆる心もて　操正しく学ばなん

〈裏面〉師は明治十三年岡山県にご出生　明治末期止若(やむわっか)、帯広に女塾を　大正六年本別に女塾を開き　大正十年十勝裁縫女学校認可後女子商業と改称、戦災、再建の途次(とじ)病重く　昭和二十二年十二月四日六十七才にて御逝去　師の堅き信念と御信仰により　全生涯を女子教育に捧げられた　ご遺徳を讃え　ご昇天四十年に当り生等(せいら)相寄り感謝奉賛して　茲(ここ)に碑を建立す。敬白

〔建立〕1987(昭和 62) 年 6 月、川上孝代先生顕彰碑建立会による。

川上孝代は本別の女子教育の先駆けであった。和洋裁の私塾を経て、1921(大正 10)年 9 月に私立十勝裁縫女学校を創設。後に十勝女子商業学校と改称され、両校で校長を務める。戦後、同校は本別家政専門女学校となるが、1975(昭和 50)年 3 月に閉校。

③ 斉藤栄山（さいとう・えいざん）句碑

碑文

消えて地に しみ入る雪の 名ごりかな

〔建立〕1954(昭和 29) 年、本別山渓吟社による。

斉藤栄山は、本別俳壇の創始者の一人で、書店を経営する傍ら、名所の発掘に努めた。本別山渓吟社は、1945(昭和 20)年、栄山により結成された。

④ 諏訪神社（すわじんじゃ）

諏訪神社奥社跡　諏訪神社は、1926(大正 15)年 6 月、本別市街の北東（鬼門）にあるため、鬼門除けとして長野県人会が長野県の官幣大社諏訪神社の分霊を受けて諏訪山頂上に建立。社殿は1971(昭和46)年、本別公園に移設され、諏訪山には奥社の石柱と鳥居が残っている。

諏訪神社鳥居　1936(昭和 11) 年 10 月、今上(きんじょう)天皇北海道行幸記念として、十勝信濃会本別支部が建立。

⑤臼田亜浪（うすだ・あろう）句碑

碑文

宵々(よいよい)に　雪ふむ　旅も　半(なかば)なり　亜浪

〔建立〕1929(昭和 4) 年、本別盟楠会同人による。

1924(大正 13)年 1 月、俳人臼田亜浪が道内を旅行中、本別に立ち寄った際に開かれた歓迎句会で詠んだ句。

⑥花の本聴秋（はなのもと・ちょうしゅう）句碑

碑文

天に銀河　地には　十勝の流れかな

〔建立〕1930（昭和5）年9月、本別杜若吟社による。

同年8月、新津澹如の俳句の師匠である花の本聴秋が十勝を訪れた際、十勝平野の展望を詠んだ句。諏訪山から利別川を望む眺めがぴったりだとしている。

⑦新津澹如（にいつ・たんにょ）句碑

碑文

居住四十年　初日燦々（さんさん）　本別町の　昔思（おもう）　澹如

〔建立〕1937（昭和12）年9月、雪光社同人による。

同年元旦、新津澹如が諏訪神社に参拝し、本別の街を望んで今と昔を思い詠んだ句と、澹如の座像が刻まれている。澹如は風光社、杜若吟社、本別盟楠会、雪光社の創立にかかわり、俳壇の中心人物の一人だった。

⑧翁洞（おきなどう）松尾芭蕉像

〔建立〕詳細不明。斉藤栄山の「本別山渓の記」に、新津澹如、渡辺仙洞、中沢機堂、町田小助、斉藤栄山ら、杜若社同人で建立したと記されている。

俳聖松尾芭蕉の石像。大きな岩に囲まれ、自然の猛威から守られており、道から外れた場所にあるので、いたずらに損なわれていない。台座の上で作句しているようである。